



Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド

Release 2.x

Published May 30, 2007

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0705R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド

Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



CONTENTS

このマニュアルについて v

対象読者と用途 v

表記法 vi

Cisco Unity Connection のマニュアル vi

技術情報の入手方法、サポート、およびセキュリティ上のガイドライン vi

シスコ製品のセキュリティの概要 vii

CHAPTER 1

Cisco Unity Connection Serviceability の概要 1-1

Cisco Unity Connection Serviceability の概要 1-1

Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス 1-2

Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer (HTTPS) の使用 1-3

HTTPS の概要 (Internet Explorer の場合) 1-3

Internet Explorer での信頼できるフォルダへの証明書の保存 1-4

Netscape での信頼できるフォルダへの証明書の保存 1-5

Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用 1-6

アクセシビリティ機能の使用 1-7

参考情報 1-7

CHAPTER 2

アラームの使用法 2-1

アラームの概要 2-1

アラーム定義 2-1

アラーム定義の表示 2-2

参考情報 2-2

CHAPTER 3

トレースの使用法 3-1

トレースの概要 3-1

トレース ログ ファイルの設定 3-2

マイクロトレースの有効化 3-3

使用可能なマイクロトレース 3-4

マクロトレースの有効化 3-7

使用可能なマクロトレース 3-8

参考情報 3-8

CHAPTER 4	Cisco Unity Connection サービスの管理	4-1
	Cisco Unity Connection サービス	4-2
	Control Center でのサービスの起動、停止、再起動、およびリフレッシュ	4-3
	参考情報	4-4
CHAPTER 5	レポートの使用方法	5-1
	レポートの概要	5-2
	レポート設定パラメータの設定	5-4
	レポートの生成と表示	5-5
	参考情報	5-6
INDEX	索引	



このマニュアルについて

このマニュアルには、次の項があります。

- [対象読者と用途 \(P. v\)](#)
- [表記法 \(P. vi\)](#)
- [Cisco Unity Connection のマニュアル \(P. vi\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポート、およびセキュリティ上のガイドライン \(P. vi\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P. vii\)](#)

対象読者と用途

『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』では、Cisco Unity Connection Serviceability を使用して、アラーム、トレース、およびサービスを設定する手順について説明します。Cisco Unity Connection を設定、トラブルシューティング、およびサポートする管理者を対象としています。IP ネットワーキングテクノロジーに関する知識が必要です。



ヒント

Cisco Unity Connection では、Cisco Unified Serviceability と Cisco Unity Connection Serviceability の両方でサービスアビリティ関連のタスクを実行します。たとえば、問題をトラブルシューティングするには、両方のアプリケーションで、サービスの起動や停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要です。

Cisco Unified Serviceability は、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection』で説明されている機能をサポートします。Cisco Unity Connection Serviceability の特定のタスクについては、このマニュアル『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

表記法

表 1 『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』での表記法

表記法	説明
太字	次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> キーおよびボタン名 (例: [OK] をクリックします) ユーザが入力する情報 (例: [ユーザ名] ボックスに Administrator を入力します)
<> (山カッコ)	ユーザが入力するパラメータを囲むために使用します (例: ブラウザーから、 <a href="https://<Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス >/cuadmin">https://<Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス >/cuadmin に移動します)。
- (ハイフン)	同時に押す必要があるキーを表します (例: Ctrl-Alt-Delete を押します)。
> (右山カッコ)	選択する順序を表します (例: Cisco Unity Connection の管理で、[連絡先] > [システム連絡先] と選択します)。

『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーション ガイド』では、次の表記法も使用します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

Cisco Unity Connection のマニュアル

Cisco.com 上の Cisco Unity Connection に関するマニュアルの説明と URL については、『*Documentation Guide for Cisco Unity Connection*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity Connection に同梱されていますが、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_documentation_roadmaps_list.html から入手することもできます。

技術情報の入手方法、サポート、およびセキュリティ上のガイドライン

技術情報の入手方法、サポート、マニュアルのフィードバックの提出、セキュリティ上のガイドライン、および推奨される類似資料や一般的なシスコの資料については、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここには、新規追加および更新されたすべてのシスコの技術資料がリストされています。次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。
<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メールを送信してください。



Cisco Unity Connection Serviceability の概要

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability の基本情報について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [Cisco Unity Connection Serviceability の概要 \(P.1-1 \)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス \(P.1-2 \)](#)
- [Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer \(HTTPS \) の使用 \(P.1-3 \)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用 \(P.1-6 \)](#)
- [アクセシビリティ機能の使用 \(P.1-7 \)](#)
- [参考情報 \(P.1-7 \)](#)

Cisco Unity Connection Serviceability の概要

Cisco Unity Connection Serviceability は、Cisco Unity Connection の Web ベースのトラブルシューティングツールです。次の機能があります。

- Cisco Unity Connection アラーム定義の表示。これは、トラブルシューティングに使用できます。
- Connection トレースの有効化。Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、トレース情報を収集して表示できます。
- Connection トレース情報を保存するログの設定。
- Connection 機能サービスのステータスの表示。
- Connection 機能サービスの起動、停止、再起動。
- さまざまなファイル形式で表示できるレポートの生成。

使用するサービスとコンポーネントによっては、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスアビリティ関連のタスクを実行する必要があります。たとえば、問題をトラブルシューティングするには、両方のアプリケーションで、サービスの起動や停止、アラームの表示、およびトレースの設定が必要です。

Cisco Unity Connection Serviceability は、『Cisco Unity Connection サービスアビリティ アドミニストレーションガイド』で説明されている機能をサポートしています。Cisco Unified Serviceability の使用方法については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection』を参照してください。

追加情報

[P.1-7 の「参考情報」](#)を参照してください。

Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス

Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスするには、次の手順を実行します。

Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスする

- ステップ 1** サポートされている Web ブラウザを使用して、Cisco Unity Connection Serviceability サービスが実行されているサーバを参照します。[アドレス] フィールドに **https://< サーバ名または IP アドレス >** を入力します。このサーバ名または IP アドレスは、Cisco Unity Connection Serviceability サービスが実行されているサーバと同じものです。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection の管理 (Cisco Unity Connection Administration)] をクリックします。
- ステップ 3** 証明書の確認を求められた場合は、[P.1-3 の「Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer \(HTTPS\) の使用」](#)を参照してください。
- ステップ 4** インストール時に指定したユーザ名とアプリケーション ユーザ パスワードを入力し、[ログイン (Login)] をクリックします。

ログインする前にユーザ名とパスワードをクリアするには、[リセット (Reset)] をクリックします。

- ステップ 5** Cisco Unity Connection の管理 が表示されたら、[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウン ボックスで [Cisco Unity Connection Serviceability] をクリックします。

Cisco Unity Connection Serviceability が表示されます。



(注)

Cisco Unity Connection Serviceability にログインした後は、Cisco Unified Communications Operating System Administration または Disaster Recovery System を除き、[Navigation] ドロップダウン ボックスに表示されるすべてのアプリケーションに、それぞれのアプリケーションにログインすることなくアクセスできるようになります。Cisco Unity Connection Serviceability のユーザ名とパスワードを使用して Cisco Unified Communications Operating System Administration または Disaster Recovery System にアクセスすることはできません。これらのアプリケーションに Cisco Unity Connection Serviceability からアクセスするには、Cisco Unity Connection Serviceability の右上にある [Logout] リンクをクリックし、[Navigation] ドロップダウン ボックスでそのアプリケーションをクリックして、[Go] をクリックします。

[Navigation] ドロップダウン ボックスに表示されるアプリケーションのいずれか (Cisco Unified Communications Operating System Administration または Disaster Recovery System 以外) にすでにログインしている場合は、ログインせずに Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスできます。[Navigation] ドロップダウン ボックスで [Cisco Unity Connection Serviceability] をクリックし、[Go] をクリックします。

追加情報

[P.1-7 の「参考情報」](#)を参照してください。

Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer (HTTPS) の使用

この項は、次の内容で構成されています。

- [HTTPS の概要 \(Internet Explorer の場合\) \(P.1-3\)](#)
- [Internet Explorer での信頼できるフォルダへの証明書の保存 \(P.1-4\)](#)
- [Netscape での信頼できるフォルダへの証明書の保存 \(P.1-5\)](#)

HTTPS は、ブラウザ クライアントと Tomcat Web サーバとの通信の安全を確保するもので、証明書と公開鍵を使用して、インターネット上で転送されるデータを暗号化します。HTTPS は、サーバの ID を確認します。これは、Cisco Unity Connection Serviceability などのアプリケーションをサポートしています。また、HTTPS は、ユーザ ログイン パスワードが Web を介して安全に転送されるようにします。

HTTPS の概要 (Internet Explorer の場合)

Cisco Unity Connection Serviceability に初めてアクセスした場合、サーバを信頼するかどうかを確認する [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスが表示されたときは、次のいずれかのタスクを実行します。

- [はい] をクリックして、現在の Web セッションに対してだけ証明書を信頼します。現在のセッションに対してだけ証明書を信頼すると、アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。つまり、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまで、ダイアログボックスが表示されます。
- [証明書の表示] > [証明書のインストール] をクリックして証明書のインストールを実行し、その証明書を常に信頼することを指定します。信頼できるフォルダに証明書をインストールすると、Web アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されることはありません。
- [いいえ] をクリックして、操作をキャンセルします。認証は行われず、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、[はい] をクリックするか、[証明書の表示] > [証明書のインストール] オプションをクリックして証明書をインストールする必要があります。



(注)

システムは、ホスト名を使用して証明書を発行します。IP アドレスを使用して Web アプリケーションにアクセスしようとする、クライアントに証明書をインストールした場合でも、[セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

追加情報

P.1-7 の「[参考情報](#)」を参照してください。

Internet Explorer での信頼できるフォルダへの証明書保存

Web アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されないように、信頼できるフォルダに CA ルート証明書を保存するには、次の手順を実行します。

Internet Explorer で信頼できるフォルダに証明書を保存する

- ステップ 1** Tomcat Web サーバでアプリケーションを参照します。
 - ステップ 2** [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されたら、[証明書の表示] をクリックします。
 - ステップ 3** [証明書] ペインで [証明書のインストール] をクリックします。
 - ステップ 4** [次へ] をクリックします。
 - ステップ 5** [証明書をすべて次のストアに配置する] オプション ボタンをクリックして、[参照] をクリックします。
 - ステップ 6** [信頼されたルート証明機関] を参照します。
 - ステップ 7** [次へ] をクリックします。
 - ステップ 8** [終了] をクリックします。
 - ステップ 9** 証明書をインストールするには、[はい] をクリックします。
 - ステップ 10** インポートが成功したというメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
 - ステップ 11** ダイアログボックスの右下にある [OK] をクリックします。
 - ステップ 12** 証明書を信頼して、このダイアログボックスが再び表示されないようにするには、[はい] をクリックします。
-

追加情報

P.1-7 の「[参考情報](#)」を参照してください。

Netscape での信頼できるフォルダへの証明書 の保存

Netscape で HTTPS を使用する場合、証明書の資格情報を表示し、1 回のセッションに対して証明書を信頼する、期限が切れるまで証明書を信頼する、または証明書を信頼しない、のいずれかを選択できます。



(注)

1 回のセッションに対してのみ証明書を信頼する場合は、HTTPS をサポートするアプリケーションにアクセスするたびにこの手順を繰り返す必要があります。証明書を信頼しない場合は、アプリケーションにアクセスできません。

信頼できるフォルダに証明書を保存するには、次の手順を実行します。

Netscape で信頼できるフォルダに証明書を保存する

ステップ 1 Netscape を使用して、Cisco Unity Connection Serviceability などのアプリケーションを参照します。

証明書認証のダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- [この証明書をこのセッションのために一時的に受け入れる]
- [この証明書を受け入れない / この Web サイトに接続しない]
- [この証明書を永続的に受け入れる]



(注) [この証明書を受け入れない / この Web サイトに接続しない] をクリックした場合、アプリケーションは表示されません。

続行する前に証明書の資格情報を表示する場合は、[証明書を調査] をクリックします。資格情報を確認し、[閉じる] をクリックします。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

[セキュリティに関する警告] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

追加情報

P.1-7 の「参考情報」を参照してください。

Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用

Cisco Unity Connection Serviceability でのトラブルシューティング、レポートの生成、サービス関連タスクの実行に加えて、次のタスクを実行できます。

- 単一ウィンドウ用にドキュメントを表示するには、Cisco Unity Connection Serviceability で [Help] > [This Page] をクリックします。
- このリリースの Cisco Unity Connection で入手可能なドキュメントのリストを表示 (またはヘルプの索引にアクセス) するには、Cisco Unity Connection Serviceability で [Help] > [Contents] をクリックします。
- このサーバ上で動作している Cisco Unity Connection Serviceability のバージョンを確認するには、[Help] > [About] をクリックするか、ウィンドウの右上にある [About] リンクをクリックします。
- 設定ウィンドウから Cisco Unity Connection Serviceability のホームページに直接移動するには、[Navigation] ドロップダウン ボックスから [Cisco Unity Connection Serviceability] をクリックします。
- Cisco Unity Connection の管理 またはその他のアプリケーションにアクセスするには、[Navigation] ドロップダウン ボックスで該当するアプリケーションをクリックし、[Go] をクリックします。
- Cisco Unity Connection Serviceability からログアウトするには、ウィンドウの右上にある [Logout] リンクをクリックします。
- Cisco Unity Connection Serviceability 設定ページごとに、ページの右下の設定ボタンに対応する設定アイコンが表示されます。たとえば、タスクを完了するには、保存アイコンまたは [Save] ボタンのどちらをクリックしてもかまいません。



(注)

Cisco Unity Connection Serviceability は、ブラウザのボタンをサポートしていません。設定タスクを実行する際は、[戻る] ボタンなどのブラウザのボタンを使用しないでください。

追加情報

P.1-7 の「[参考情報](#)」を参照してください。

アクセシビリティ機能の使用

Cisco Unity Connection Serviceability には、ユーザがマウスを使用せずにウィンドウ上のボタンにアクセスするための機能があります。これらのナビゲーション ショートカットは、視覚に障害のあるユーザがアプリケーションを使用する際の補助となります。

キーボードショートカットを使用したインターフェイスナビゲートのガイドとして、[表 1-1](#) を使用してください。

表 1-1 Cisco Unity Connection Serviceability 用のナビゲーション ショートカット

キーストローク	操作
Alt	ブラウザのメニューバーをアクティブにします。
Enter	アクティブになっている項目(メニュー オプション、ボタンなど)を選択します。
Alt、矢印キー	ブラウザのメニューを切り替えます。
スペースバー	制御を切り替えます。たとえば、チェックボックスのオンとオフを切り替えます。
Tab	タブの次の項目または次の制御グループをアクティブにします。
Shift+Tab	タブの前の項目またはグループをアクティブにします。
矢印キー	グループ内の制御を切り替えます。
Home	上の領域に情報がある場合に、ウィンドウの上部に移動します。また、ユーザが入力したテキスト行の先頭に移動します。
End	ユーザが入力したテキスト行の終わりに移動します。 下の領域に情報がある場合に、ウィンドウの上部に移動します。
Page Up	1 ページ分だけ上にスクロールします。
Page Down	1 ページ分だけ下にスクロールします。

追加情報

[P.1-7 の「参考情報」](#)を参照してください。

参考情報

- [Cisco Unity Connection Serviceability の概要 \(P.1-1\)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス \(P.1-2\)](#)
- [Hypertext Transfer Protocol over Secure Sockets Layer \(HTTPS\) の使用 \(P.1-3\)](#)
- [Cisco Unity Connection Serviceability インターフェイスの使用 \(P.1-6\)](#)
- [アクセシビリティ機能の使用 \(P.1-7\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*



アラームの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのアラームの使用方法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [アラームの概要 \(P.2-1\)](#)
- [アラーム定義 \(P.2-1\)](#)
- [アラーム定義の表示 \(P.2-2\)](#)
- [参考情報 \(P.2-2\)](#)

アラームの概要

Cisco Unity Connection Serviceability のアラームは、実行時のステータスおよびシステムの状態に関する情報を提供するので、システム関連の問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、Cisco Unity Connection Serviceability アラームを使用して、MWI を設定できるポートがあるかどうかを判別できます。アラーム情報には、カタログ、名前、シビラティ、説明、推奨処置、ルーティングリスト、およびパラメータが含まれます。

アラームを収集するには、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用します。アラームを表示するには、RTMT で SysLog Viewer を使用します。

追加情報

[P.2-2 の「参考情報」](#)を参照してください。

アラーム定義

アラーム定義は、アラームの意味やアラームからの回復方法など、アラーム メッセージについて説明します。

[Alarm Message Definitions] ページでアラーム情報を参照します。アラームをクリックすると、アラーム情報の説明と推奨処置が [Alarm Information] ページに表示されます。トラブルシューティング用に、定義にはアラーム名、状況、シビラティ、説明、推奨処置、ルーティングリスト、およびパラメータが含まれます。

追加情報

[P.2-2 の「参考情報」](#)を参照してください。

アラーム定義の表示

この項では、アラーム定義を検索して表示する方法を説明します。

アラーム定義を表示する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[**Alarm**] > [**Definitions**] をクリックします。

[Alarm Message Definitions] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 必要なアラーム定義の検索条件を入力し、[**Find**] をクリックします。

すべてのアラーム定義を表示するには、検索条件をブランクのままにして、[**Find**] をクリックします。

定義のリストが表示されます。



(注) アラーム定義のページは複数にわたる場合があります。別のページを選択するには、[Alarm Message Definitions] ウィンドウの下部にあるナビゲーション ボタンをクリックします。ウィンドウに表示されるアラームの数を変更するには、[Rows per Page] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択します。

ステップ 3 リストで、アラームの詳細を表示したいアラーム定義のハイパーリンクをクリックします。

[Alarm Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [Alarm Message Definitions] ウィンドウに戻るには、[Related Links] ドロップダウン リスト ボックスから [**Back to Find/List Alarms**] をクリックして、[**Go**] をクリックします。

追加情報

P.2-2 の「[参考情報](#)」を参照してください。

参考情報

- [アラームの概要 \(P.2-1\)](#)
- [アラーム定義 \(P.2-1\)](#)
- [アラーム定義の表示 \(P.2-2\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*



トレースの使用法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのトレースの使用法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [トレースの概要 \(P.3-1\)](#)
- [トレース ログ ファイルの設定 \(P.3-2\)](#)
- [マイクロトレースの有効化 \(P.3-3\)](#)
- [使用可能なマイクロトレース \(P.3-4\)](#)
- [マクロトレースの有効化 \(P.3-7\)](#)
- [使用可能なマクロトレース \(P.3-8\)](#)
- [参考情報 \(P.3-8\)](#)

トレースの概要

Cisco Unity Connection Serviceability トレースは、次のような方法で、Cisco Unity Connection の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

- コンポーネントに対してトレースを実行したときに作成できるログ ファイルの最大数や最大ファイル サイズなどのログ ファイル パラメータを、Cisco Unity Connection コンポーネントごとに指定できます。
- 必要なマイクロトレースおよびマイクロトレース情報のレベルを有効にできます。
- 必要なマクロトレース（事前に選択されたマクロトレースのグループ）およびマクロトレース情報のレベルを有効にできます。

ログ ファイルを設定してトレースを有効にした後は、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用してトレース ログ ファイルを収集できます。トレース収集の詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*』の「RTMT での Trace and Log Central の設定」の章を参照してください。



(注)

マクロトレースまたはマイクロトレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

トレース ログ ファイルの設定

Cisco Unity Connection サービスのトレース ログ ファイルを設定するには、次の手順を実行します。



(注)

トレース情報がログ ファイルに書き込まれるようにするには、まず、選択した領域でトラブルシューティング情報を提供するマイクロ トレースまたはマクロ トレースを有効にする必要があります。

トレース ログ ファイルを設定する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Configuration] をクリックします。

[Trace Configuration] ページが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン ボックスで、Cisco Unity Connection サーバをクリックして [Go] をクリックします。

ステップ 3 [Component] ドロップダウン ボックスから、トレース ログ ファイルを設定するコンポーネントを選択し、[Go] をクリックします。



(注)

ドロップダウン ボックスにすべてのコンポーネント (アクティブおよび非アクティブ) が表示されます。

ステップ 4 [Maximum No. of Files] フィールドに、このコンポーネントに対して作成するトレース ログ ファイルの最大数を入力します。

ステップ 5 [Maximum File Size] フィールドに、このコンポーネントに対して作成するトレース ログ ファイルのサイズの上限 (メガバイト単位) を入力します。

ステップ 6 デフォルト設定に戻す場合は、[Set Default] をクリックします。それ以外の場合は、次のステップに進みます。

ステップ 7 [Save] をクリックします。

ステップ 8 このコンポーネントの古いトレース ログ ファイルを新しいトレース ログ ファイルに替えたい場合は、[Restart Log Files] をクリックします。



ヒント

ログ ファイルを設定してトレースを有効にした後は、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用してトレース ログ ファイルを収集できます。トレース収集の詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection*』の「RTMT での Trace and Log Central の設定」の章を参照してください。

追加情報

P.3-8の「参考情報」を参照してください。

マイクロトレースの有効化

マイクロトレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントの問題をトラブルシューティングする場合に有効にします。たとえば、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Alert Central ツールでエラーが発生した場合は、Notifier トレースを有効にします。ただし、トレースを実行するとシステムパフォーマンスとハードドライブスペースに影響が及ぶことに留意してください。



(注)

マイクロトレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

マイクロトレースを有効にする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Micro Traces] を選択します。

[Micro Traces] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン ボックスで、Cisco Unity Connection サーバをクリックして [Go] をクリックします。
- ステップ 3** [Micro Trace] ドロップダウン ボックスで、有効にするマイクロトレースをクリックして、[Go] をクリックします。
- ステップ 4** [Micro-Trace Levels] の下で、有効にするマイクロトレースレベルのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。



ヒント

Cisco Unity Connection の問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability および Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする必要がある場合もあります。Cisco Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection』を参照してください。

追加情報

P.3-8の「参考情報」を参照してください。

使用可能なマイクロトレース

表 3-1 で、使用可能なマイクロトレースのリストを示し、それぞれのマイクロトレースの分析内容を説明します。

表 3-1 マイクロトレース

マイクロトレース名	トレースの分析内容
Arbiter	コールに使用されるカンパセッション、ポート、およびコールルーティングルール
AudioStore	Media Master を使用してオーディオストリームを再生または録音する Web ベースのアプリケーションによって使用されるオーディオ録音サービス
AxlAccess	電話関連のプロパティを取得および設定するための AXL サーバとの対話
BulkAdministrationTool	複数のユーザまたはシステム連絡先の作成、更新、および削除に使用される Bulk Administration Tool
CCL	Cisco Unified MeetingPlace Express からの会議情報の取得
CDE	カンパセッション エンジンおよびカンパセッション イベント
CDL	データベースからの情報の取得
CML	Cisco Unity Connection メッセージストアからのメッセージの取得。テキスト / スピーチ機能を使用して電子メール メッセージを読み取るための Exchange サーバからのメッセージの取得 (IMAP を使用)。
CiscoPCA	Cisco Personal Communications Assistant (Cisco PCA)
Common	Cisco Unity Connection サービスによって共有されるコンポーネント用の低レベル アクティビティ
ConfigData	データベース内で更新された設定データの検出
ConvRoutingRules	Arbiter によるコールの転送先となるカンパセッション
ConvSub	ユーザ アクティビティおよび使用状況
CsLicense	ライセンスの処理に関連する機能
CsMalUmss	CML、Notifier、および IMAP サーバによるメッセージストアへのアクセス
CuCcmSynchronizationTasks	Cisco Unified CM からのユーザデータの同期化
CuCsMgr	Cisco Unity Connection の主要プロセス。Connection の起動と停止。
CuEncrypt	暗号化 (メッセージングを除く) と暗号化監査ログ
CuGal	Exchange からのカレンダーおよび連絡先情報の取得
CuImapSvr	IMAP クライアントによるボイス メッセージへのアクセス
CuService	Cisco Unity Connection Serviceability のアクティビティ
Cuca	Cisco Unity Connection の管理 のアクティビティ
DataSysAgentTasks	SysAgent タスク
DbEvent	データベース変更のコンポーネント通知
FailureConv	システム エラーが発生した場合の失敗カンパセッションのアクティビティ
LicenseClient	ライセンス管理に関連する機能
Logger	トレース、ログ、およびイベントの書き込み
MTA	メッセージストアへのボイス メッセージの送信

表 3-1 マイクロトレース (続き)

マイクロトレース名	トレースの分析内容
MediaMasterControl	クライアントワークステーションでの Media Master コントロール
MediaMasterUMS	Media Master と AudioStore の間でストリーム オーディオ録音を処理する UMS サービス
MediaMasterWeb	Media Master コントロールを持つ Web ベースのアプリケーションで使用される Web ページ レンダリング モジュール
MiuAdm	ボイス メッセージ ポートのテストおよび証明書生成に関連する Cisco Unity Connection の管理内の機能
MiuCall	Miu とカンパセーションの間のプロセス
MiuDatatbase	データベースへのアクセスに関連するメディア アクティビティ
MiuGeneral	電話ユーザ インターフェイス (TUI) によるコールのトラッキング、コール コントロール機能、メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、基本メディアまたは WAV ファイル使用量
MiuIO	TAPI (回線交換または Cisco Unified CallManager) 連動でのメディアまたは WAV ファイルの使用量
MiuMethods	着信コールの受け渡し、コール コントロール、メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え、通知機能とアウトダイヤル機能、メディアまたは WAV ファイル使用量
MiuSIP	SIP コール コントロール
MiuSIPStack	コール コントロールのための低レベル SIP 対話
MiuSkinny	SCCP コール コントロール
MiuTranscode	トランスコーディングに関連する低レベル メディア機能
Mixer	メディアおよびテキスト / スピーチ機能に関連する低レベル アクティビティ
Monitor	コール中のボイス メッセージ ポートおよびコール処理のステータスの監視。Real-Time Monitoring Tool にポート ステータスを表示するためのサーバ側の機能。
Notifier	メッセージおよび選択されたイベントの通知、メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え
PCAMeetingPlace	Cisco Unified MeetingPlace Express 連動に関連する Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ
PCUnifiedCM	Cisco Unified Communications Manager 連動に関連する Cisco Personal Communications Assistant のアクティビティ
PerfMonitor	Cisco Unity Connection が使用するパフォーマンス モニタ システム オブジェクトのアクティビティ
PhoneManager	IP 電話アプリケーションの管理
PhraseServer	再生するプロンプトおよびユーザ DTMF 入力。ログはファイルに書き込まれます。
PhraseServerToMonitor	再生するプロンプトおよびユーザ DTMF 入力。ログはモニタに書き込まれます。
RSS	RSS クライアントからのボイスメールの確認に使用される RSS フィード
ReportDataHarvester	レポート データベース内のエントリに対するデータ ログ ファイル内の内容のカンパセーション

表 3-1 マイクロトレース(続き)

マイクロトレース名	トレースの分析内容
ResourceLoader	GUI での選択された言語の使用、製品またはメッセージ情報でのストリングの埋め込み
ResourceManager	使用可能なリソースを監視し、必要に応じて Arbiter に提供
RoutingRules	コールルーティングの決定
RulesEngine	コール中にサブスクライバの Cisco Unity パーソナル着信転送ルールを評価
SMTP	SMTP 機能
Scheduler	現在アクティブな Cisco Unity Connection スケジュール(通常の業務時間内または業務時間外)または休日
SslInit	OpenSSL を使用するコンポーネントの初期化手順
SysAgent	管理者が入力するシステム タスク(MWI の再同期化など)をスケジュールするシステム エージェント コンポーネント
TRaP	クライアントが電話機を録音および再生デバイスとして使用できるようにする、電話での録音と再生(TRAP)
TextToSpeech	テキスト/スピーチ機能のアクティビティ
ThreadPool	プロセッサによるスレッドの使用
TimerHelper	Conversation Manager コンポーネントが使用するタイマー
TranscodeWeb	着信オーディオ ストリームを、Cisco Unity Connection が使用するオーディオ形式に変換する Web サーバ オーディオ形式変換ユーティリティ
UmssSysAgentTasks	システム エージェント コンポーネントのメッセージ タスク
UnityAssistant	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity Assistant のアクティビティ
UnityInbox	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity Inbox のアクティビティ
UnityPCTR	Cisco Personal Communications Assistant での Cisco Unity パーソナル着信転送ルールのアクティビティ
VUI	ボイス ユーザ インターフェイス
VirtualQueue	コール キューイング

追加情報

P.3-8 の「[参考情報](#)」を参照してください。

マクロトレースの有効化

マクロトレースは、特定の Cisco Unity Connection コンポーネントの問題をトラブルシューティングする場合に有効にします。たとえば、MWI に問題が発生した場合は、Traces for MWI Problems マクロトレースを有効にします。ただし、トレースを実行するとシステムパフォーマンスとハードドライブスペースに影響が及ぶことに留意してください。



(注)

マクロトレースを有効にすると、システムのパフォーマンスが低下します。トレースを有効にするのは、トラブルシューティングの場合だけです。

マクロトレースを有効にする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Trace] > [Macro Traces] をクリックします。
[Macro Traces] ページが表示されます。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン ボックスで、Cisco Unity Connection サーバをクリックして [Go] をクリックします。
- ステップ 3** 有効にするマクロトレースのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** マクロトレースを展開し、有効にするレベルのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。



ヒント

Cisco Unity Connection の問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability および Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする必要がある場合もあります。Cisco Unity Connection コンポーネントをトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability でトレースを有効にします。同様に、Cisco Unified Serviceability でサポートされているサービスをトラブルシューティングするには、Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にします。Cisco Unified Serviceability でトレースを有効にする方法については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection』を参照してください。

追加情報

P.3-8 の「参考情報」を参照してください。

使用可能なマクロ トレース

表 3-2 で、使用可能なマクロ トレースのリストを示し、それぞれのマクロ トレースの分析内容を説明します。

表 3-2 マクロ トレース

マクロ トレース名	トレースの分析内容
Call Flow Diagnostics	Cisco Unity Connection を通じてのコールのフロー
Message Objectid Tracking Traces	メッセージ処理。送信から削除までメッセージを処理するオブジェクト。
Call Control (Miu) Traces	コール コントロール機能
Traces for MWI Problems	メッセージ ウェイティング インジケータ (MWI) のオンとオフの切り替え
Traces for Other Notification Problems	通知機能とアウトダイヤル機能
Unity Startup	Cisco Unity Connection 起動機能
Voice User Interface/Speech Recognition Traces	ボイス ユーザ インターフェイス (VUI)
Media (Wave) Traces	メディアおよび WAV ファイル使用量
Text to Speech (TTS) Traces	テキスト / スピーチ (TTS) 機能。TTS と対話する別の Cisco Unity Connection コンポーネントにトレースを記録することもできます。
Connection Serviceability Web Service	Cisco Unified Serviceability のアクティビティ

追加情報

P.3-8 の「参考情報」を参照してください。

参考情報

- [トレースの概要 \(P.3-1\)](#)
- [トレース ログ ファイルの設定 \(P.3-2\)](#)
- [マイクロ トレースの有効化 \(P.3-3\)](#)
- [使用可能なマイクロ トレース \(P.3-4\)](#)
- [マクロ トレースの有効化 \(P.3-7\)](#)
- [使用可能なマクロ トレース \(P.3-8\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*
- *Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*



Cisco Unity Connection サービスの 管理

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのサービスの管理について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [Cisco Unity Connection サービス \(P.4-2\)](#)
- [Control Center でのサービスの起動、停止、再起動、およびリフレッシュ \(P.4-3\)](#)
- [参考情報 \(P.4-4\)](#)

Cisco Unity Connection サービス

Cisco Unity Connection には次のサービスがあります。

Unity Connection のサービス

- Connection DB
- Connection DB Event Publisher
- Connection License Server
- Connection Voice Recognizer
- Connection Mixer
- Connection Message Transfer Agent
- Connection IMAP Server
- Connection SMTP Server
- Connection Conversation Manager
- Connection Notifier
- Connection Voice Recognition Transport
- Connection System Agent
- Connection Groupware Caching Service
- Connection Reports Data Harvester
- Connection CM Database Event Listener

Unity Connection SOAP のサービス

- Connection Realtime Monitoring APIs
- Connection Access Layer

Unity Connection Admin のサービス

- Connection Administration
- Connection Serviceability
- Connection Integrated Mailbox Configuration
- Connection Personal Communication Assistant

Control Center でのサービスの起動、停止、再起動、およびリフレッシュ

Cisco Unity Connection Serviceability の Control Center を使用すると、Cisco Unity Connection のサービスを起動、停止、および再起動できます。また、Cisco Unity Connection サービスのステータスを表示およびリフレッシュできます。

ある特定の Cisco Unity Connection サービスを停止または再起動すると、進行中のコールが切断される場合があります。サービスを停止または再起動すると、そのサービスに依存するその他のサービスも停止または再起動されます。

Cisco Unity Connection サービスを起動、停止、再起動、またはサービスのステータスをリフレッシュするには、次の手順を実行します。起動、停止、または再起動できるサービスは一度に1つだけです。

Control Center でサービスを起動、停止、再起動、およびリフレッシュする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Control Center - Feature Services] を選択します。
- ステップ 2** [Server] ドロップダウン ボックスで、Cisco Unity Connection サーバをクリックして [Go] を選択します。
- ステップ 3** ウィンドウに、Cisco Unity Connection サービスが次の情報とともに表示されます。

表 4-1 Cisco Unity Connection サービス情報

サービス カラム	説明
Service Name	サービスの名前。
Status	サービスが実行中か停止しているかを示します。次の 4 つのステータスがあります。 <ul style="list-style-type: none"> Starting (起動中) Running (実行中) Stopping (停止中) Stopped (停止)
Start Time	サービスが最後に起動された日付と時刻。
Up Time	サービスが連続して起動していた時間。
Depends On	このサービスが正しく機能するために動作している必要のあるサービスのリスト。

- ステップ 4** 次の作業のいずれかを実行します。
- 起動するサービスの横にあるオプション ボタンをクリックして、[Start] をクリックします。
 - 更新を反映したステータスに変わります。
 - 停止するサービスの横にあるオプション ボタンをクリックして、[Stop] をクリックします。
依存するサービスも停止するかどうか確認を求められたら、[Yes] をクリックします。更新を反映したステータスに変わります。



(注) Connection DB サービスと Connection Serviceability サービスは、Cisco Unity Connection Serviceability では起動、停止、または再起動できません。Connection DB サービスおよび Connection Serviceability サービスを起動、停止、再起動するには、コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用する必要があります。

- 再起動するサービスの横にあるオプション ボタンをクリックして、[Restart] をクリックします。
依存するサービスも再起動するかどうか確認を求められたら、[Yes] をクリックします。更新を反映したステータスに変わります。
- [Restart All] をクリックします。
すべてのサービスを再起動するかどうか確認を求められたら、[Yes] をクリックします。更新を反映したステータスに変わります。
- [Refresh] をクリックします。
ウィンドウが、ステータスの更新を反映してリフレッシュされます。



ヒント

問題をトラブルシューティングするには、Cisco Unity Connection Serviceability と Cisco Unified Serviceability の両方でサービスを管理する必要があります。

Cisco Unified Serviceability サービスについては、『*Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

追加情報

P.4-4 の「参考情報」を参照してください。

参考情報

- [Cisco Unity Connection サービス \(P.4-2\)](#)
- [Control Center でのサービスの起動、停止、再起動、およびリフレッシュ \(P.4-3\)](#)
- *Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection S*



レポートの使用方法

この章では、Cisco Unity Connection Serviceability でのレポートの使用方法について説明します。この章の構成は、次のとおりです。

- [レポートの概要 \(P.5-2\)](#)
- [レポート設定パラメータの設定 \(P.5-4\)](#)
- [レポートの生成と表示 \(P.5-5\)](#)
- [参考情報 \(P.5-6\)](#)

レポートの概要

Cisco Unity Connection Serviceability を使用すると、システムの設定とコールハンドラについての情報を収集してレポートを作成できます。

Cisco Unity Connection Serviceability では、次のレポートを生成できます。

表 5-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート




レポート名	出力の説明
電話インターフェイスでの失敗したログオン	<p>電話での Cisco Unity Connection へのログオンが失敗した場合に、そのすべてのログオン試行について次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ログオンに失敗したユーザのユーザ名、エイリアス、発信者 ID、および内線番号。 • ログオン試行が失敗した日時。 • ユーザが、ログオン失敗の最大回数に達したかどうか。
ユーザ	<p>各ユーザに関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 姓、名、およびエイリアス。 • ユーザに関連付けられている Connection サーバを識別するための情報。 • 課金 ID、サービスクラス、および内線番号。 • アカウントがロックされているかどうか。 • ユーザがパーソナル着信転送ルールを有効にしているかどうか。
ユーザのメッセージアクティビティ	<p>送受信されたメッセージに関して、次の情報がユーザごとに含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前、内線番号、およびサービスクラス。 • 各メッセージの日時。 • 各メッセージの送信元に関する情報。 • 完了した操作（新しいメッセージ、メッセージの開封、MWI オン要求など）。 • ユーザが受信した新しいメッセージの数、およびメッセージ発信者に関する情報。 • 発信番号と結果。
同報リスト	<p>次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リストの名前と表示名。 • リストの作成日時。 <p> (注) 同報リストの作成日時は、グリニッジ標準時で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リストに含まれているユーザの番号の数。 • [Include List Members] チェックボックスをオンにした場合は、リストのメンバーになっている各ユーザのエイリアスのリスト。

表 5-1 Cisco Unity Connection Serviceability で使用できるレポート (続き)

レポート名	出力の説明
ユーザ ロックアウト	<p>ユーザのエイリアス、ユーザがログオンに失敗した回数、資格のタイプ (結果が「4」の場合は Connection ガイダンスからのログオン試行を示し、「3」の場合は Web アプリケーションからのログオン試行を示す) およびアカウントがロックされた日時が含まれています。</p> <p> (注) ユーザアカウントのロックアウト日時は、グリニッジ標準時で示されます。</p>
未使用ボイスメールアカウント	<p>ユーザのエイリアスと表示名、およびユーザアカウントの作成日時が含まれています。</p> <p> (注) ユーザアカウントの作成日時は、グリニッジ標準時で示されません。</p>
転送電話課金	<p>各通話に関する次の情報が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザの名前、内線番号、および課金 ID。 • 通話が発生した日時。 • ダイヤルされた電話番号。 • 転送の結果 (接続、応答なし (RNA)、通話中、不明)
発信課金詳細	<p>次の情報が含まれています。これらの情報は、日付および電話をかけたユーザの内線番号に基づいて整理されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前、内線番号、および課金 ID。 • 通話の発生日時。 • ダイヤルされた電話番号。 • 通話の結果 (接続、応答なし (RNA)、通話中、不明) • 通話の長さ (秒)
発信課金要約	<p>出力は、日付および電話をかけたユーザの名前、内線番号、および課金 ID に基づいて整理されています。この出力は 1 日 (24 時間) のリストであり、指定された日の各 1 時間の発信時間 (秒単位) が示されています。</p>
コールハンドラトピック	<p>各コールハンドラに関する次の情報が含まれています。1 日の各 1 時間に 1 行使用されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通話の合計数。 • 各タッチトーンキーが押された回数。 • 内線番号。 • 無効な内線番号。 • グリーティング再生後の操作が発生した回数。 • 発信者が電話を切った回数。
システムコンフィギュレーション	<p>Connection システムのコンフィギュレーションのすべての面に関する、詳細な情報が含まれています。</p>

追加情報

P.5-6 の「参考情報」を参照してください。

レポート設定パラメータの設定

Cisco Unity Connection は、レポート生成の基礎となるデータを収集して格納するように自動的に設定されます。生成するレポートの出力内容に応じて、次のパラメータを調整できます。レポートのパラメータ設定は、すべて Cisco Unity Connection Administration の [システム設定 (System Settings)] > [アドバンス (Advanced)] > [レポート (Reports)] ページにあります。

- [データ収集サイクルの間隔 (ミリ秒) (Milliseconds Between Data Collection Cycles)]: デフォルトでは、30 分 (1,800,000 ミリ秒) に設定されています。この設定によって、レポートデータを収集する各サイクル間に Connection が待機する時間の長さを制御します。
- [レポートデータベースのデータ保存期間 (日) (Days to Keep Data in Reports Database)]: デフォルトでは、180 日に設定されています。生成しようとするレポートに対して、この日数を超える値を対象期間として指定しても、データの日数はここで設定する値によって制限されます。
- [レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)]: デフォルトでは、25,000 レコードに設定されています。このフィールドに指定できる最大値は、30,000 レコードです。生成しようとするレポートで、レコード数がこの許容最大値を超える場合は、レポートを何回かに分けて生成します。たとえば、データ範囲を狭くするか、各期間に含まれるユーザーアカウントの数を減らします。



(注) ユーザーのメッセージ アクティビティ レポートでは、[レポート出力の最大レコード数 (Maximum Records in Report Output)] の設定が、デフォルトの 25,000 レコードではなく 15,000 レコードに制限されます。これは、レポートのサイズが大きくなるためです。

- [進捗インジケータを表示するために必要な最小レコード数 (Minimum Records Needed to Display Progress Indicator)]: デフォルトでは、2,500 レコードに設定されています。このフィールドに指定できる最大値は、10,000 レコードです。進捗インジケータの目的は、要求したレポートのサイズが大きく、完了に時間がかかる場合に警告することです。Connection では、レポートはブラウザから生成します。このブラウザ セッションは、レポートを生成している間は開いたままにしておく必要があります。データベースのサイズや生成しているレポートのタイプによっては、レポートの生成に時間がかかることがあります。この間、管理者はブラウザを使用できず、Connection Administration セッションを開いたままにしておく必要があります。

レポートデータのアーカイブ

レポート データは、設定したデータ保存期間パラメータに基づいて、徐々に上書きされていきます。履歴を残すためにレポートを保管しておく場合は、レポートを定期的に生成するスケジュールを計画し、それらのレポートを Connection サーバ以外の場所に保存することをお勧めします。

追加情報

P.5-6 の「参考情報」を参照してください。

レポートの生成と表示

レポートを生成する場合、次の項目の一部またはすべてを指定できます。

- レポートに含めるオブジェクト（ユーザアカウントやコールハンドラなど）
- レポートに含める日付と時刻の範囲
- レポート内のデータのソート順

レポートのファイル形式は、次の中から選択できます。

[Web Page]	HTML ファイル。レポート出力は、Web ブラウザに表示されます。 小さなレポートをすぐに表示するには、この形式を選択します。 レポートを保管しておく場合は、PDF レポートを生成することをお勧めします。
[Comma-delimited File]	テキストファイル(カンマ区切り、または CSV ファイルとも呼ばれる)。レポート出力は、カンマ区切りのデータストリングとして表示されます。スプレッドシートプログラムなど、別のアプリケーションで情報を表示または印刷する場合に、この形式を選択します。
[PDF File]	レポート出力は、読みやすい形式で PDF として表示されます。PDF は、印刷および保存できます。レポートを保管しておく場合は、この形式を選択することをお勧めします。

レポートを生成するには、システムがビジー状態でないときが最適です。Connection が多くの通話を処理していない通常の営業時間後、または他のプロセスが実行中でない場合（たとえば、フルバックアップの前後）です。レポート生成要求は、キューに入れられます。複数のレポートが（それぞれ別のブラウザから）同時に生成される場合、レポートは順に待機し、一度に1つずつ処理されます。



注意

システムがビジー状態のときに大きなレポートを生成すると、システム リソースを消費し、結果としてシステム ユーザに対する応答時間が長くなる可能性があります。

レポートは、事前にスケジュールを設定できません。また、レポートの生成中に Connection サーバをシャットダウンするか、Connection Administration のブラウザ セッションを閉じると、レポートの生成はキャンセルされます。

レポートを生成して表示する

ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability で、[Tools] > [Serviceability Reports] を選択します。

[Serviceability Reports] ページが表示されます。

ステップ 2 [Serviceability Reports] ページで、生成するレポートの名前をクリックします。

ステップ 3 レポート出力のファイル形式を、次の中から選択します。

- [Web Page]
- [Comma-delimited file]

- [PDF File]

ステップ4 フィールドが使用可能な場合は、適切な開始日時と終了日時（年、月、日、時刻）をクリックして、日付範囲を設定します。

ステップ5 必要に応じて、その他のパラメータを設定します。

ステップ6 [Generate Report] をクリックします。

ステップ7 [ステップ3](#) で選択したファイル形式に応じた方法で、レポート出力を表示します。

- [Web Page] を選択した場合、レポート出力はブラウザウィンドウに表示されます。
 - [Comma-delimited File] を選択した場合は、ファイルダウンロードダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するように求められます。
 - [PDF File] を選択した場合は、ファイルダウンロードダイアログボックスが表示され、ファイルを開くか、保存するように求められます。
-

追加情報

[P.5-6 の「参考情報」](#)を参照してください。

参考情報

- [レポートの概要 \(P.5-2\)](#)
- [レポート設定パラメータの設定 \(P.5-4\)](#)
- [レポートの生成と表示 \(P.5-5\)](#)



INDEX

- C
- Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT)、アラームを収集および表示するために使用 2-1
 - Cisco Unity Connection serviceability、概要 1-1
 - Cisco Unity Connection Serviceability へのアクセス 1-2
 - Control Center
 - サービスのリスト 4-2
 - サービスを起動、停止、再起動、およびリフレッシュするために使用 4-3
- H
- HTTPS
- Internet Explorer での証明書の保存 1-4
 - Internet Explorer の場合の概要 1-3
 - Netscape で証明書を保存 1-5
 - 使用方法 1-3
- hypertext transfer protocol over secure sockets layer (HTTPS)
- Internet Explorer での証明書の保存 1-4
 - Internet Explorer の場合の概要 1-3
 - Netscape で証明書を保存 1-5
 - 使用方法 1-3
- I
- Internet Explorer
- HTTPS の概要 1-3
 - 信頼できるフォルダへの証明書の保存 1-4
- R
- RTMT、アラームを収集および表示するために使用 2-1
- あ
- アクセシビリティ機能 1-7
 - アラーム
 - 概要 2-1
 - 定義 2-1
 - 定義の表示 2-2
 - データベースでの定義の検索 2-1
- い
- インターフェイス、使用 1-6
- か
- 概要、トレース 3-1
- き
- キー ストローク、ナビゲーションに使用 1-7
 - 機能サービス
 - 起動、停止、再起動、およびリフレッシュ 4-3
 - ~のリスト 4-2
- こ
- コール ハンドラ トラフィック レポート 5-3
- さ
- サービサビリティ
 - アクセス 1-2
 - 概要 1-1
 - サービス
 - 起動、停止、再起動、およびリフレッシュ 4-3
 - ~のリスト 4-2
 - サービスの起動 4-3
 - サービスの再起動 4-3

- サービスの停止 4-3
 - サービスのリフレッシュ 4-3
- し
- システム コンフィギュレーション レポート 5-3
 - 証明書、Internet Explorer での信頼できるフォルダへの保存 1-4
 - 証明書、Netscape での信頼できるフォルダへの保存 1-5
 - 診断トレース、概要 3-1
 - 信頼できるフォルダへの証明書の保存 1-5
- て
- データベース、アラーム定義の検索 2-1
 - 転送電話課金レポート 5-3
 - 電話インターフェイスでの失敗したログオンのレポート 5-2
- と
- 同報リスト レポート 5-2
 - トレース
 - 概要 3-1
 - マイクロトレース、~のリスト 3-4
 - マイクロトレース、有効化 3-3
 - マクロトレース、~のリスト 3-8
 - マクロトレース、有効化 3-7
 - ログファイルの設定 3-2
- な
- ナビゲーション、キー ストロークを使用 1-7
- は
- バージョン、Cisco Unity Connection Serviceability 1-6
 - 発信課金詳細レポート 5-3
 - 発信課金要約レポート 5-3
- へ
- ヘルプ、アクセス 1-6
- ま
- マイクロトレース
 - ~のリスト 3-4
 - 有効化 3-3
 - マクロトレース
 - ~のリスト 3-8
 - 有効化 3-7
- み
- 未使用ボイス メール アカウント レポート 5-3
- ゆ
- ユーザ レポート 5-2
 - ユーザ ロックアウト レポート 5-3
 - ユーザのメッセージ アクティビティ レポート 5-2
- れ
- レポート
- 概要 5-2
 - コールハンドラ トラフィック 5-3
 - システム コンフィギュレーション 5-3
 - 出力 5-5
 - 詳細 5-2
 - 生成 5-5
 - 設定パラメータ 5-4
 - 転送電話課金 5-3
 - 電話インターフェイスでの失敗したログオン 5-2
 - 同報リスト 5-2
 - 発信課金詳細 5-3
 - 発信課金要約 5-3
 - 表示 5-5
 - 未使用ボイス メール アカウント 5-3
 - ユーザ 5-2
 - ユーザ ロックアウト 5-3
 - ユーザのメッセージ アクティビティ 5-2
- ろ
- ログファイル、トレース用に設定 3-2